

の官憲等の調査を基礎として編纂せしもの、編を分ちて地理沿革、衛生、政治、財政、治安、港灣、交通、通信、土木、貨幣及金融、商事、貿易、工業、農産、漁業、移民及労働、教育、宗教、井に公益施設、在留本邦人とせり。全編三六〇頁の内かく多くの事項を網羅せる爲め地理、沿革の部の如きは其記事極めて簡單にして而も個々の材料の羅列に過ぎず、然れども此等の事情を明かにするは本書の主眼にあらず。商事、貿易、交通の編の如きは常に商業殖民地として英國人の奮闘及成功を示せる本港の状態を知らしむるのみならず、本港の南支及東亞の貿易上の地位を明かにするに資すべし。(啓成社發行價一、五〇)〔以上田中〕

●Martinez, A. and Lewandowski, M.:

The Argentine in the Twentieth Century. 1915.

London. ¥ 2.75

單行本文又は叢書として、近時南米に關する著述の公刊せらるゝもの其の數甚夥からずといへども、此の書の如き良書の一なり此の書はもつ The Modern World Series の一にして、而も同叢書既刊中にありては唯一の南米關係の書とす。其の初版は十數年前、西玩牙語を以てせられたるが、後佛語にて訂正増補せらるゝ所あり、かくてそれより英譯せられたるものが即ち此の書なり、英譯初版の年一九一一年より今日に至るまで、既に版を重ねる事

三度に及べり。思ふに南米開發は近時に於ても世界の一大問題にして、其發展は列強の注目せる所なり。南米諸國中發達の最も迅速なるは、いふまでもなく亞爾然丁とす。其の最近の發展は實に日本と共に、世界中の奇蹟と稱せらる、例へば耕地の如きは、一九〇九年に至る過去四ヶ年間に、二千五百萬エーカーより一躍三千五百萬エーカーとなりて、七割五分の増加を示せり。又此の間に於ける穀物收穫の貨額約二千萬圓より一億八千餘萬圓に激増せり。されば廿六七年前までは、パンの原料として麥粉を輸入したりし此の國が今や一人一噸當の生産額を示し、盛に海外に輸出するに至れるなり。又畜産を見るに、過去廿年間に於て、羊のみは七百萬頭を減じて六千七百餘萬頭となれるも、一般に多大の増殖を示し、牛は三百餘頭を増し、その他にも八百餘萬頭の増數を見るものある程にて、全家畜の價格は實に廿億圓を見積らる亦盛なりといふべし。此の書は即ち亞爾然丁の農作物及其の加工品、畜産、鐵産等に就きて、正確なる統計によりて之を説述し、(第二章第三章)貿易及金融機關等を論じ、(第三章)最後に財政上の研究を試みたり(第四章)此等は何れも地理學研究上参考すべき所甚だ多し、而も全卷の約三分の一を費せる自然地理上の條件、鐵道及び移入民と拓殖(第一章)の部門は極めて意義深き文字あるを認めしむ。書中に取扱はれたる統計上の數字は、英譯初版の年に於ては

最近のものなりしも、既に幾年を經過したる今日、發展急速なる同國の最近事情を窺はんとするに當り、儼然たるは勿論なれども同國事情の概觀をなすには敢て不可なるべし。

●WILCOX, E., V.: Tropical Agriculture.

New York. 1916 Y. 5.50

著者は亞米利加合衆國農務官吏なり、同國が近時輸入せる熱帶諸地方の産物が年十二億圓にも上れる所より、著者が熱帶地方に於ける農業の状態を其の國人に知らしめむ目的を以て、ものしたるもの即ち是なり。而して著者は更に熱帶農業將來の發展に關する諸問題闡明の必要と、殊に南米諸邦に就きて一層の理解を要すべきを述ぶ。余が此の書を紹介せむとするも亦一は之と同意なるに基く。此の書は二大部門に分ち得べし。一は總論にして、他は各論なり。其の各論の部に於ては、農産物各種に就きて、植物としての性質、産地及び貿易の状況等を綴説せり。而して熱帶地方の植産物、礦産物及動物等に就きては、書名及び著述の目的にも示されたれども、亦此の部門に於て、それと農産物と同様の方式によりて、取扱はれたるは喜ぶべし。其の總論の部に於ては、「熱帶氣候と人類及び生物に及ぼす影響」又は「熱帶地方特有の農法」の如き最も興味深かるべき問題を始めとして、熱帶地方の土壤、熱帶産物の商業上に於ける重要な度や、經濟及び社會狀態と

熱帶地方の天惠等に就きての著者の見解を窺ひ得べし。余は此の書を一讀して、著者の所論所説に對し全然首肯せるものにはあらざれども、近時此の種の書籍多からざるを以て、地理學又は地理科研究の參考資料として、殊に中等教師諸君に推奨せむと欲するものなり。抑熱帶地方に於ける農産、畜産又は礦産等の開發事業は、歐米列強が熱心に劃策し、努力せる所にして、換言すれば、歐米諸國の殖民地開拓問題たるべし。南米諸國の如きは既に獨立の國家を形成せりと雖も、彼等が各々其の國發展上に致せる施設と事情とは歐米殖民地のそれと全然相異せるにはあらず、熱帶地産業といふ點よりすれば、更に一層の一致點あるを認むるものなり。海外發展、殖民思想養成は、近時我が國教育界に見る流行語なれども、其の實際に於ては徒らに大語壯語して、冒險心のみを養成すれば、以て其の目的に適ふとせずもの少からず、斯くの如きは其の結果、實に、角を矯めんとして牛を殺すに類す。己を知り敵を知るは、攻城野戰にのみ、用ふべき兵法の秘訣にはあらず諸外國及び殖民地の事情を知得するにあらずんば、平和角逐場裡に於て、いかでか其の國基を鞏固にし、國民發展の實を擧げ得べき。此の意味に於て、余は本書記述の如き智識の國民間に普及せられむ事を切望するものなり。〔以上内田寛一〕